

## 言語によるコミュニケーション —看板英語を事例として—

傅 建 良

(芸術文化観光専門職大学)

### 1. はじめに

本発表は、言語によるコミュニケーションの原点を振り返りながら、コミュニケーション活動の参加者間の「共有構築」に焦点を当て、看板英語（言語景観）を含む具体的な事例を提示しながら、時間と空間の共有構築のメカニズムを解明しようと試みたい。

### 2. 語源にみるコミュニケーションと「共有構築」

語源的には、communication は古フランス語 *comunicacion* に由来し、さらにラテン語 *communicatio(n)* に遡ることができる。『オックスフォード英単語由来大辞典』（2015）によれば、communication はほぼ日本語のコミュニケーションと意味的に重なっている。また、communication には「伝達、情報交換、意思のやり取り、通信、交信」などの意味があり、それらの語義から「共有構築」の概念がコミュニケーション活動の根底にあるとされる（神門、2022）。1382 年に Wyclif が英訳した新約聖書に現れた *comynycacioun* が communication の初出とされ、これからさらに「いつくしみをもってなされる物心の共有」という概念が派生している（OED<sup>2</sup>、1989；神門、2022）。

Communication に関する先行研究について、Dance & Larson (1976) によると、それまで 126 にも及ぶ定義があった（1976, pp. 171-192）。「共有」という概念に関しては次の

(1)–(3) のような記述があった。

- (1) Communication must be two-way, for the response is part of the process. (ibid., 172)
- (2) Communication is the transmission and interchange of facts, ideas, feeling, course of action. (ibid., 173)
- (3) Communication is a term to refer to any dynamic, information sharing process. (ibid., 174)

### 3. コミュニケーション活動の構成要素

Dance & Larson (1976) の 126 通りの定義（記述）のうち、特にオーラルコミュニケーションの構成要素を下記の (4) のように詳述している。これらの先行研究に踏まえて、本発表ではコミュニケーション活動の構成要素を (5) の通り整理している。

- (4) Oral communication includes 1) the speaker, 2) the ideas in the speech, their organization and the language in which they are present, 3) the purposes of

communication itself (voice, articulation of sounds, and bodily actions), 4) the audience (listeners and observers), and 5) the speaking situation (the events and influence within a particular time and place). (ibid., p. 172)

- (5) コミュニケーション活動の構成要素：(A) 送り手、(B) 意味情報 (a. 文字通りの意味；b. 言外の意味)、(C) 場面状況、(D) 媒体、(E) 受け手

コミュニケーションプロセスでは、送り手 (5A) と受け手 (5E) との間に共有構築の度合いが高いほど深いコミュニケーションが成立しやすいとされる。例えば、韓国の大学で先輩と後輩が会話する場面 (5C) では、共有構築がしっかりできていれば、(6) は単なる文字通りの意味情報 (5Ba) ではなく、(7) のような言外の意味 (5Bb) を持つことがある (平田, 2012)。

(6) 先輩、飯食いに行きましょう。(韓国の大学で)

(7) 先輩、おごって下さい。

(平田, 2012, p.152)

また、コミュニケーションの共有構築では、文化のような比較的安定した共有とは異なり、時間と空間の共有構築はより動的である。これらの構成要素を具体的な事例としての看板英語・言語景観に当てはめると、表 1 のように比較できる。

	Oral communication	看板英語
送り手	speakers	看板設置者
意味情報	ideals, messages	案内、指示、警告
媒体	voice	文字 (符号等)
場面状況	speaking situation	看板の設置空間・時間帯
受け手	listeners	市民、観光客、イベント参加者

表 1 オーラルコミュニケーションと看板英語コミュニケーションとの構成要素の比較

#### 4. 看板英語によるコミュニケーションの共有構築：時間・空間編

看板の設置空間・時間帯について、空港構内の言語景観を対象とした研究として、Fewings (2001) と Cunningham & King (2021) は (8) のように指摘している。要するに、看板は必要な場所に必要な時間帯に設置されるべきである。

- (8) There are several principles at play in the design and placement of airport signage. Firstly, signage should be clear and unambiguous. Secondly, the signage should be at the point of need in time and space. Thirdly, the reader should immediately be able to see from the form of the sign if it is intended to communicate directions, identify a location, or reassure the reader that they are still going the right way (Fewings, 2001; Cunningham & King, 2021, p. 101)

ここまで考察してきたコミュニケーションの「共有構築」と「構成要素」を看板英語によるコミュニケーションに応用することを試みる。看板英語によるコミュニケーションでは、送り手の「いま・ここ」と受け手の「いま・ここ」を一致させる共有構築が重要である。この共有構築が不十分だと、意図したコミュニケーションが成立しないことがある。Fig. 1 と (9) は時間の共有構築が不十分な例を示している。

(9) 本日の営業は終了しました。(レストラン看板)

深夜閉店後、Fig.1の看板を見かけた場合はコミュニケーション上で支障はないが、翌朝開店前にこの看板を見た場合はミスコミュニケーションが生じる可能性がある。「本日」は直示的時間詞で基準時によって解釈が変わる特徴を有している。(9)では送り手は設置時を基準時として「本日」と発信しているが、受け手は受信時(例えば翌朝)を基準時としており同じ日にその看板を見たとは限らず両者の間に時間の共有構築が不十分である可能性がある。

時間の共有構築は看板英語のほか、放送ニュース英語においてもコミュニケーションを成立させるための必須条件となっている。放送ニュースは、臨時ニュースや現場中継まで対応可能なため、即時性(immediacy)を重視し、例えば *this morning* や *about five hours ago* といった直示的時間表現を多用する傾向がある(藤井, 2004, pp. 15-6)。

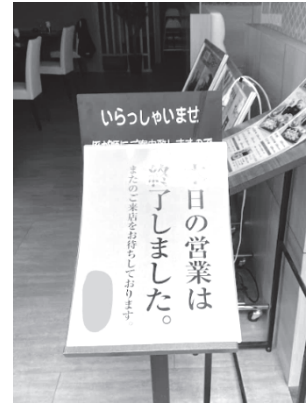


Fig.1 レストラン看板  
(著者撮影)

(10) The fate of a U.S helicopter is still unknown. The Pentagon confirms an OH-58 chopper made an emergency landing about five hours ago. CNN, December 17, 1994  
(藤井, 2004, p. 16, 下線は発表者)



Fig.2 シアトル空港  
看板  
(著者撮影)

例(10)の *about five hours ago* は、受け手(読み手)の「Now」ではなく、1994年12月17日に実際にニュースが放送された時刻(発信時)を基準時としている。ニュースの再放送や文字化の際には、(10)のように発信時を明記することで、時間の共有構築が可能になる。

Fig.2は、空間の共有構築ができている事例として、シアトル・タコマ国際空港内に設置されている案内看板である。この看板は「文字+符号」という媒体を用いており、写真の左側には到着、右側には乗り継ぎの道を案内している。この看板によるコミュニケーションが成立するためには、設置場所と看板にある「You are here」の場所とが一致しなければならない。また、看板には方向指示の情報も含まれており、看板の向きも正確でなければならない。媒体(文字+符号)や場面状況(空間・方向)等の構成要素が共同作用し、この看板型コミュニケーションが成り立っている。

続き、時間と時間の共有構築ができて例として、Fig.3 と (11) を取り上げる。Fig.3 では時間の共有を構築するために非直示的時間表現 *between 5:00 AM and 12:00 AM* を用いている。つまり、送り手と受け手の「いま」を完全一致させるストラテジーがとられている。そして、空間の共有を構築するためには Fig.3 の看板を Free Shuttle の乗り場・降り場に設置する必要がある。

(11) Free Shuttle between Link Light Rail & Terminal  
Operates Continuously between 5:00 AM and  
12:00 AM

## 5. まとめ

これまでの考察をまとめると、communication は語源、語義、初出例、そして先行研究から見ると「共有」の概念に深く関わっていると言える。言語によるコミュニケーションの事例として、特に時間と空間の共有構築を考察するなか、看板型コミュニケーションに焦点を当てた。一般的な英語によるコミュニケーションとは異なり、言語景観によるコミュニケーションでは、看板英語が時間空間や方向等の案内情報を提供する役割を果たしている。したがって、送り手と受け手との間には強く時間と空間の共有構築が求められる。



Fig.3 シアトル空港看板  
(著者撮影)

## 参考文献

- Cunningham, U. & King, J. (2021). Information, education, and language policy in the linguistic landscape of an international airport in New Zealand, In G. Niedt. & C. A. Seals. (Eds.), *Linguistic Landscape: Beyond the Language Classroom* (pp. 97-115). London: Bloomsbury Academic.
- Dance, F. E. X. & Larson, C. E. (1976). *The functions of human communication: a theoretical approach*, Holt McDougal.
- Fewings, R. (2001). Wayfinding and airport terminal design. *Journal of Navigation* 54(2), 177-84. <https://doi.org/10.1017/S0373463301001369>
- 藤井章雄 (2004) 『放送ニュース英語の体系』東京：早稲田大学出版部。
- 神門しのぶ (2022) 「語源に見るコミュニケーション概念の本質-- 隣人愛との接点」『*Humanitas catholica*』11, 17-28.
- グリニス・チャントレル (編) 澤田治美 (監訳) (2015) 『オックスフォード英単語由来大辞典』東京：終風舎。
- 平田オリザ (2012) 『わかりあえないことからーコミュニケーション能力とは何か』東京：講談社。
- OED CD-ROM (Second Edition), 1989.